



明治の私塾、長峰塾

圏文化振興課（支所） TEL 43・1111（内線1324）

令和元年の幕開けに知っておきたい 明治時代の「石岡の教育」

新元号「令和」元年を迎えました。昭和、平成と経て、令和はどんな時代になるのでしょうか？

2020年度には小学校で2021年度には中学校で新学習指導要領が全面实施されます。新しい時代をつくるのは

今を生きる子どもたち。ふるさと歴史館では、新たな時代の幕開けにあたり、教育で明治という新時代を作ろうとした石岡の教育者・鈴木銀四郎に関する企画展を開催します。

温故知新。地域の歴史を知ることが、より良い未来を考えるヒントになるかもしれません。

明治の教育改革と私塾

「人々自ら其の身を立て其の産を治め其の業を昌にし以て其の生を遂る」

これは明治5年の学制序文の冒頭に書かれた言葉です。簡単に訳せば、教育を受

けて自分のやりたいことを見つけ、悔いのない人生を送りましょう、といったところでしようか。

明治の教育改革を受け、石岡でも公立小学校が各地に設置され、近代教育がスタートしました。

しかし金銭面で余裕がない、遠くて通えないなどの理由で小学校に行けない子どもたちもいました。そんな子どもたちが通ったのが、江戸時代後期頃から各地に設置された私塾です。

私塾とは、かつて藩校などで学んだ旧藩士や庄屋・名主層、あるいは天狗党の乱に参加した志士などによって運営され、読み書きだけでなく、農業指導が行われることもありました。

地域に根差した内容を取り扱い、子どもや家庭に合わせた教育の選択肢があったことが読み取れます。

長峰塾

―教育で作る新時代

石岡市内には、水戸藩士や国学者による私塾のほか、井関の檜山塾といった私塾が開かれ、これらの塾からは近代石岡の発展を支える人物が輩立っていました。

今回は、それらの私塾の一つ、井関地区の「長峰塾」を紹介いたします。

指導者は、井関村の庄屋だった鈴木銀四郎。「徳川時代並二明治初年ノ私塾ニ関スル調査」（石岡市史中巻II収録）の資料によると、長峰塾では、水戸学者・会沢正志斎などの影響を強く受けた水戸学を基礎に据えて授業を行っていたようです。読み書きなどの基礎教養に加え、四書五経や歴史書を用いた講義も行われました。

教育は誰もが受けるものという思想が反映されており、授業料は徴収せず、経済的に

井関地区の庄屋、鈴木銀四郎が起こした私塾「長峰塾（安政5年～明治末期）」。

長峰塾とは通称で、幕末から明治初期を「惜陰舎」、一時の中断を挟み明治20年以降を「水西山荘」または「水西学舎」と言います。惜陰舎は時間を大切にするという意味で、水西山荘は尊敬する人物、西山公・徳川光圀から付けられた名前です。

ふるさと歴史館 企画展

長峰塾

—教育で作る新時代—

ふるさと歴史館は、縄文時代から近世までの石岡の歴史を学べる施設。

年に4回、文化振興課の職員がテーマを決めて企画展を実施しています。今回は、地域と密接に結びつく明治初期の石岡の教育に関する展示です。

期間

5月8日(木)～8月4日(日)
(午前10時～午後4時)

場所 ふるさと歴史館
(市民会館隣り)

住所 総社1-2-10

休館日 月曜日
(祝日の場合は翌日)

入館料 無料

☎ふるさと歴史館
Tel 23-2398

学芸員の解説が聞ける
まちづくり出前講座

5人以上集まれば、石岡市の学芸員による歴史講座を受講できます。

詳しくは本号10ページをご確認ください。

☎生涯学習課(支所)
Tel 43-1111 (内線1364)



(写真左) 銀四郎が井関村の小学校開設のため村の人たちから資金を募った記録です(写真右) 長峰塾をのぞむ林の中に建てられた石碑。卒業生によって建てられました

人として一日も
欠くべからざるもの
銀四郎の功績は、私塾で多くの子弟を育てただけではあ

余裕のない家庭であっても教育機会を得ることができました。何歳で入塾するか、何年学ぶかは人それぞれ。幅広い学習ニーズに応えていました。明治20年の入塾者は33名。同年の井関尋常小学校の生徒数は72名で、多くの子どもを引き受けていたことが分かります。塾の入門者を記録した名簿によれば、およそ半数は地元、半数は村外からの学生で、小桜や林など八郷地区からも学びに来ていました。長峰塾は延べ37年間、明治末まで続きました。

りません。石川・成井・穴倉の井関周辺の村々と協議を進め、明治9年に公立小学校を設置します。自らは学校事務係として運営を支えました。また「公立学校二校ヲ設置スル経意」(石岡市史中巻II収録)によれば、明治15年に一校では不足であるとし、学校の追加設置を求めています。そこには「夫れ人として一日も欠くべからざる者は教育の道也」とあります。銀四郎は「新たな時代を作る上で最も重要なことは教育である」ということを見抜いていたのです。公立学校設置にあたり、無償教育を実施し、教科書・道具類の貸出などを提案、近代教育の理想を実現するため尽力しました。



「長峰塾」指導者・鈴木銀四郎の生い立ち

幼名を六郎といい、天保9年に水戸藩領の井関村で生まれました。家訓に従い5歳から学問を始め、11歳で田伏村(現かすみがうら市田伏)の齋藤晩晴の塾に入ります。

齋藤晩晴は立原杏所などに学び、藤田東湖や佐久良東雄などと親交を持った人物です。鈴木銀四郎はこの塾で学問に打ち込み、小川・延方などの郷校で講義を担当したり、小石川弘道館での文武修行を許されるほどでした。井関村に帰ってからも、庄屋として、郷校時代に結んだ水戸藩の志士と交流を保ち、充実した知識を地域へと供給しました。